

■自己評価の目的
自己評価は、園の取組みを振り返り、自園の良さや特色、運営の状況等を確認し、教育活動がより一層充実できるよう、改善の方向を明確にするために実施します。
自己評価の取組みを通じて、園としての今後、重点的に取り組むべきことは何かをみながら考えます。
尚、自己評価は、個人を評価するものではなく、園全体としての現状や課題を把握するためのものです。各評価項目について、自身の考えや思いを率直に記入してください。

【評価基準】
A：十分達成されている(よくできている)
B：達成されている(できている)
C：達成されているが成果が十分ではない(あまりできていない)
D：取組みが不十分である(全くできていない)

評価分類	評価項目	具体的確認項目	評価 (A・B・C・D)	具体的に取組めたこと	今後の課題(「もっとこうしたら方がいい」と思うこと)
I. 教育内容	教育方針・目標 幼児のみとりに理解	教育方針・目標	A	・四季を通じ、自然に触れながら、植物や生き物の世話をし、命の尊さや自然の恵みの大切さを保育に取り入れ、その成果は保護者に受け入れられている。 ・新入園児の説明会や入園式、進級式等において、保護者の方々に、教育方針や目標を伝え、家庭の協力の大切さを理解する。 ・「親学」を新入保護者に向けて実施。保育者一ターダより、育児の自己反省と評価を奨励し合い、話し合った。	
		園たよりの発行やPTA委員会や役員会に積極的に参加し、交流を深めている。	A	・毎月1回の園便り、行事・約束書・園児の近況などを知らせ、PTAの行事や味噌作りを実施し、卒園児のPTAとの交流にも努めている。	
		園内の環境整備に心掛け、又、食育として季節の野菜作りを取り組んでいる。	A	・季節の野菜作りを工夫したり、花壇、野菜、小動物等の世話をしたりして、季節の自然を感じ、また、食育として野菜畑で収穫したものを保育に取り入れ、収穫の多い園児を共通の課題として話し合い、一人ひとりにしっかりと見守りながら、権のつながりを持って育てるよう配慮し、全体をよく思える力を養っている。	
		個々の幼児をじっくりと見ながら、周囲にも目を配ることができている。	A	・子供たちの意見に耳を傾け、保育者の考えを押し付け無様に、幼児が自発的に考え言葉で伝えられ、行動出来るよう心掛けている。	
		幼児を保育者の一方的な感じ方や考え方で決めつけないようになっている。	A	・日常の登降園時や個人面談等で、保護者と話し合う機会を設定し、要望や相談を受け、必要であれば行政機関と交流できる体制を整えた。	
II. 教職員体制の充実	指導とかかわり	園籍が違っても、いじめにならないように心掛け、平等に関わっている。	A	・日本語の通じない子供には、ゆくりと分かるように進め、家庭でも、なるべく日本語での会話を促し、自分の思いは伝えられるように心掛けている。	
		教師らしい品位ある言葉、正しい日本語の用法を心がけている。	B	・保育者は子どもと手本となる存在であるということを常に認識し、正しい言葉遣いに努め、外国の子供たちにも正しい日本語が話せるよう心掛けている。	
		年中・年長児対象で、英語に対する興味を得られるように楽しく保育に取り入れる。	A	・週一回、定期的に保育に取り入れ、英語遊びとして歌・ダンスを通して簡単な言葉身につけ、楽しんで英語に親しむ姿を保護者にも参観する機会をつくった。	
		幼児がひらがな文字や数字に興味を得られるように保育に取り入れる。	A	・年中児から始め、週一回定期的に保育に取り入れ、文字遊びとして楽しく書き方を学び数学や数も保育に取り入れている。	
		幼児が遊びを深めるため、幼児が自ら考えたり工夫したりできるような見守り方をして	A	・遊びについて研究や情報交換を行い、保育者の意見を押し付けるのではなく、子供たちの「アイデア」を促していきけるよう工夫している。	
III. 研修と研究	教職員同士の協力・連携	長児は鼓舞隊やカラードで、一つの目標に向かって本意と協力して作り上げている	A	・鼓舞などの役割も大切であることや、カラードも皆揃えるのはどうすれば良いかを子ども達と考え、協力することの大切さを学ぶように言葉かけをする。	
		全園児にピアノを取り入れ、色んな楽器を使って情景豊かな保育に心がける。	A	・保育に取り入れ、全員で合奏したり、楽器遊びへの幅を広げ、楽しく演奏できるように心掛け、音楽の分野も広げている。	
		年長児は一泊保育を通して自立心と協調性が得られることを目的に実施している。	B	・年長児という自覚を持ち、グループ行動で協力することの大切さを学び、自分で考えて行動し、自信が持てるよう心掛けて、自立心を養う。	
		工夫して製作したり描いたりしたものを展示し、鑑賞したり、してもらい喜びを感じる。	A	・展示物が見やすく、効果的に見えるように展示方法を工夫し、成長していく様子が分かりやすい展示し、家族で鑑賞している。	
		定期的に職員会議をして、保育についての話し合い、評価し合い、又、反省をして保育の向上につなげる。	A	・各週の職員会議で行事計画を認識し、課題の多い子供の対応について一貫性を持ち、協力しあって保育している。	
IV. 安全・衛生管理	研修・研究への取組	月案・週案・日誌により、保育の進行具合を一律にし、クラス差やおくれの無い様に自分の保育については自己課題として計画と反省を行い、自己研鑽に励む。	B	・学々年に話し合いを密にし、ねらいに沿って計画的に保育を実施する。 ・各学年の足並みを揃えるよう心掛けている。	
		研修を終了した教職員が、研修内容を発表する機会を設けている。	B	・一日の保育内容を振り返り、出来事を保育日誌に記載しながら反省をし、翌日の保育の糧にして、向上を目指す。	
		素材を同じくしても、年齢差を感じられるようにそれぞれ工夫した保育をしている。	B	・同じ素材を発達年齢に合わせて、工夫し、想像力豊かに発揮できるように取り組む。	
		定期的に園児たちに対する災害時安全教育を実施している。	A	・災害などの緊急時の避難訓練を月に一回実施している。避難方法や避難経路を指定し、集合場所へ迅速に集合する。	
		緊急時(事故やけが、感染症の発生時など)の対応手順について、全教職員が共通理解をもてるよう取り組んでいる。	B	・緊急時の保護者等への対応について、時には医師の判断を仰ぎ、迅速に具体的な話し合い訓練を実施している。救命救急講習を受けている。	
V. 地域との連携	地域への開放と支援	子どもたちに対する安全教育を実施している。	B	・火災・交通安全・不審者侵入の対応手順について、警察や消防署に要請し具体的な話し合い訓練を実施している。救命救急講習を受けている。	
		地域の子育てセンターとしての機能を発揮している。	B	・園庭開放が地域に根付いて、子育ての相談をうけている。	
		地域の子どもたちとの交流を充実させる。	B	・敬老の集いで地域の方々と在園児との交流を深め、また、クラブや行事に参画することで、お互いに親しみや期待を持てるようになっている。	
		定期的な子育て支援教室を開催する予定としている。	B	・定期的な子育て支援教室を開催する予定としている。	
		地域の方々と在園児の交流する機会をもっと充実させていきたい。	B	・地域の人と共に避難訓練の体験ができれば良いとおもう。 ・色んな場合を想定して、もっと回数を増やしていこうと思う。	

1. 本園の教育目標

- くつろいだ雰囲気の中で情緒の安定を図る。
- 一人ひとりの良さを伸ばし、自己の能力を十分発揮させる。
- 自立と協調性を重視し、優しい気持ちでいたわる心を養う。
- 野菜の育成を観察し、収穫を喜び、自然とのかかわりを通し生物をいつくしむ。
- 体力測定を通して運動能力を高める。
- 工夫して創作することにより、豊かな創造力を育て、生演奏を聴いて情操豊かになる。
- 一年間学習した歌、リズム、劇遊びを通じて表現する喜びを知る。
- クッキング等、異年齢児の交流を通して、社会性、人間性を養う。

2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

- ・評価項目に沿って自己評価・点検をすることにより、客観的に捉える力を養い、保育技術の向上、改善に取り組んでいくことを重点目標とする。
- ・避難訓練として、防火訓練を行うため、大型消防車に来てもらい、正しく訓練を行う。

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組状況
教育内容	新教育要領の理解を深め、実態に合わせて体験を増やし、振り返りながら指導計画を作成した。
教職員の資質	月案、週案、日案を充実させ、様々な知識や技術を習得し、研修や保育を公開したりして、保育の向上をめざし、新しい事にもチャレンジして、自己研鑽に励んでいる。
安全管理	定期的に遊具・園庭・保育室・その他の設備の安全点検を実施し改善している。緊急時には一斉メール配信を実施。緊急の場合を想定して避難訓練を実施。救急救命の講習を受講。
子育て支援事業	未就園児の親子に月一回、施設を開放し、在園児と交流したり子育て相談を実施している。保育状況を見学したり、未就園児対象のリズム体操をしている。
食育	野菜を育てることにより、季節感や野菜の成長過程に興味や関心を持ち、嫌いな野菜でも食することも出来、収穫した野菜を使ったクッキングで異年齢交流が活発になった。
保護者との連携	登園、降園時などに理解を共有するため、子どもの様子など伝え、子育ての相談を受けている。又、保護者との交流を深めるため、文化教室等も催し、保護者同士の交流も図っている。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

自己点検・自己評価をすることによって、園全体で取り組む課題や個々の課題について、熱心に意見交換が行われ、取り組むべき方向性も明確になり、一層の向上が期待される。

5. 今後取り組むべき課題

R2年度も個々の個性を重んじ、今以上、子どもの自己能力が一層発揮できるように、資質向上を目指して研修を充実させ取り組んでいく。

6. 学校関係者の評価

特に指摘すべき点はなく、妥当であると認められる。

7. 財務状況

令和元年度収支では、園児数は横ばいにもかかわらず、現状維持できています。
公認会計士による監査では、資金収支計算書、事業活動収支計算書が適正に表示されていると認められた。